

Next YOKOHAMA

## 第414回 横浜定期演奏会

2026年1月24日(土) 15:00 横浜みなとみらいホール

指揮・ヴァイオリン:

ヴィルフリート・和樹・ヘーデンボルグ

ベートーヴェン:《献堂式》序曲

モーツァルト: ヴァイオリン協奏曲第3番

ヨーゼフ・シュトラウス: ワルツ《我が人生は愛と喜び》

ヨハン・シュトラウスⅡ世:

アンネン・ポルカ、ポルカ・シュネル《浮き立つ心》、  
ワルツ《ウィーン気質》、ポルカ《帝都はひとつ、ウィーンはひとつ》、  
ワルツ《芸術家の生活》



S席 ¥9,500 A席 ¥8,000 B席 ¥7,000 C席 ¥6,000 P席 ¥5,000 Ys席 ¥2,500

※ Ys席: 25歳以下の方が対象のお席です。S席以外から選べます。

創立  
70周年  
記念  
★★★

## 特別演奏会 マーラー〈千人の交響曲〉

2026年6月21日(日) 17:00 / 22日(月) 19:00

サントリーホール

日本フィル創立記念日

指揮: カーチュン・ウォン [首席指揮者]

ソプラノⅠ (罪深き女): 船越亜弥 ソプラノⅡ (懺悔する女): 吉田珠代

ソプラノⅢ (栄光の聖母): 三宅理恵 アルトⅠ (サマリアの女): 花房英里子

アルトⅡ (エジプトのマリア): 中島郁子 テノール (マリア崇敬の博士): 宮里直樹

バリトン (法悦の教父): 青山貴 バス (瞑想する教父): 加藤宏隆

合唱: 日本フィルハーモニー協会合唱団、武蔵野合唱団、  
東京音楽大学、杉並児童合唱団

マーラー: 交響曲第8番《千人の交響曲》変ホ長調



©山口教

2026年  
3/18  
発売

チケット料金 (税込)

SS ¥15,000 S ¥12,000 A ¥10,000 B ¥8,500 Ys (25歳以下) ¥5,000

◎70周年特別定期会員は最優先発売 最優先発売日 2026年3月5日(日) ~ 3月10日(木)



人、音楽、自然—日本フィルのテーマです。

JAPAN  
PHILHARMONIC  
ORCHESTRA

— 創立指揮者 渡邊 暁雄 —

日本フィルハーモニー交響楽団  
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第413回

# 横浜定期演奏会

413th YOKOHAMA Subscription Concert

2025年12月13日(土) 午後3時開演

横浜みなとみらいホール

3:00pm December 13th(Sat.), 2025, at Yokohama Minato Mirai Hall



主催: 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援: 神奈川新聞社、+vkk(テレビ神奈川)

協力: 横浜みなとみらいホール

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))

独立行政法人日本芸術文化振興会



## フレッシュな響きで贈る、特別な第九

今年注目若手指揮者、出口大地が登場します。東京音楽大学出身の出口は、日本フィルの「フレンド・オブ・JPO（芸術顧問）」のポストを持つ広上淳一氏に薫陶を受け、その際には日本フィルの第九公演に合唱団として出演した経験もあるという縁があります。前半にはドイツオペラの基礎を築いたウェーバーの最後のオペラ《オベロン》より序曲で演奏会を彩ります。勢いあふれる出口のタクトが今をときめくフレッシュなソリスト陣とともに、ベートーヴェンの大作「第九」に新たな魅力を感じさせてくれることでしょう。

### Programs

ウェーバー：歌劇《オベロン》序曲（約9分）

Carl Maria von WEBER: "Oberon" Overture

—— 休憩（15分） Intermission ——

ベートーヴェン：

交響曲第9番《合唱》ニ短調 op.125（約65分）

Ludwig van BEETHOVEN: Symphony No.9 "Choral" in D-minor, op.125

指揮：出口大地 Conductor: DEGUCHI Daichi

ソプラノ：砂田愛梨 Soprano: SUNADA Airi

メゾソプラノ：山下裕賀 Mezzosoprano: YAMASHITA Hiroka

テノール：石井基幾 Tenor: ISHII Motoki

バリトン：高橋宏典 Baritone: TAKAHASHI Kosuke

合唱：東京音楽大学 Chorus: Tokyo College of Music

コンサートマスター：田野倉雅秋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: TANOKURA Masaaki, JPO Solo Concertmaster

### Profile

©hiro.pberg berlin



#### 指揮：出口大地

2021年第17回ハチャトゥリアン国際コンクール指揮部門にて日本人初の優勝。同年クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位及びオーケストラ特別賞。

2021年ベルリン放送交響楽団の公演にてヴラディーミル・ユロフスキ氏のアシスタントを務める。ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、アルメニア国立交響楽団等の指揮を経て、2022年7月、東京

フィルハーモニー交響楽団定期演奏会にて日本デビューを飾る。その後京都市響、読売日本響、仙台フィル、日本センチュリー響、群馬響、神戸室内管、新日本フィル、東京都響、兵庫芸術文化センター管、大阪フィル、東京響、神奈川フィル、日本フィル、大阪響、札幌響をはじめとして日本各地のオーケストラへのデビューが続いている。2024年9月からの1年間、リエージュ王立フィルハーモニー管弦楽団アシスタントコンダクターを務めた。

大阪府豊中市生まれ。関西学院大学法学部卒業後、東京音楽大学作曲指揮専攻（指揮）卒業。2023年3月ハンスアイスラー音楽大学ベルリンオーケストラ指揮科修士課程修了。指揮を広上淳一、田代俊文、三河正典、下野竜也、クリスティアン・エーヴァルト、オペラ指揮をハンス・ディーター・バウムの各氏に師事。またネーメ、パーヴォ、クリスティアン・ヤルヴィ、ドナルド・ラニクルズ、ヨハネス・シュレーフリ、井上道義、沼尻竜典各氏らのマスタークラスにオーディションを経て招待され、薫陶を受ける。

第33回（2025年度）渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。

公式ホームページ <https://daichideguchi.wixsite.com/daichideguchi>



← YouTube チャンネル

【2分でわかる大人のためのオーケストラ入門 Plus+】

X、Instagram では2分バージョン配信中！

この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。ご希望の方は主催受付までお申し出ください。

#### ●お客様へのお願い●

演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声や体の動きなどで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。



### ソプラノ：砂田愛梨

東京音楽大学卒業及び同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所修了。2025年第94回日本音楽コンクール第1位および岩谷賞、増沢賞、INPEX賞、第23回東京音楽コンクール第2位および聴衆賞を受賞。サッサリ市立劇場《ドン・パスクアーレ》ノリーナでデビュー後、コゼンツァ市立劇場、ミラノ・カルカノ劇場、サルザーナ・オペラ・フェスティバル等に出演を続ける。2026年は藤沢市民オペラ《ランスへの旅》コルターゼ夫人、群馬交響楽団《カルメン》フラスキータ、新国立劇場《ウェルテル》ソフィーなどのオペラ公演や演奏会へ出演予定。ミラノ在住。



### メゾソプラノ：山下裕賀

東京藝術大学卒業、同大学院修士課程を首席修了。同大学院博士後期課程単位取得。第92回日本音楽コンクール声楽部門第1位および聴衆賞、第9回静岡国際オペラコンクール三浦環特別賞を受賞。2026年はNHKニューイヤーオペラコンサートをはじめ、群馬交響楽団《カルメン》タイトルロール、京都市交響楽団《ゴジ・ファン・トゥッテ》ドラベッラ、東京都交響楽団定期演奏会ではマーラー「千人の交響曲」、ブリテン「春の交響曲」でそれぞれソリストとして出演を予定している。日本声楽アカデミー会員。令和6年京都市文化芸術きらめき賞受賞。



### テノール：石井基幾

東京藝術大学卒業、同大学院声楽専攻、サントリーホールオペラ・アカデミー第5期アドバンスト・コース修了。2020年にバリトンからテノールへ転向後、翌21年にサントリーホール主催G.ヴェルディ《椿姫》アルフレード役でデビュー。東京・春・音楽祭に23年から出演を続けており、23年《仮面舞踏会》、24年《アイダ》(R.ムーティ指揮)、25年《シモン・ボッカネグラ》に出演し好評を博す。また、Tan Dun《TEA》では日本人初のキャストに抜擢され海外公演に出演し、26年4月にはブダペスト芸術宮殿にて欧州デビューを予定している。



### バリトン：高橋宏典

東京藝術大学音楽学部声楽科、同大学大学院オペラ専攻修了。在学中、安宅賞、宮田亮平奨学金、アカンサス賞受賞。第12回東京国際声楽コンクール第1位及び東京新聞賞受賞。第58回日伊声楽コンクール入選。2023年第3回平井康三郎声楽コンクール第2位。これまでに、日本オペラ協会《源氏物語》朱雀帝、藤原歌劇団《ファウスト》ヴァグネル、ソニックシティ新作オペラ《平家物語-平清盛-》源頼朝などで出演。コンサートでは、モーツァルト「レクイエム」、ヴェルディ「レクイエム」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」等にソリストとして出演を重ねている。



### 合唱：東京音楽大学

東京音楽大学合唱団は「合唱」授業科目の履修者から選抜された学部生と声楽専攻の大学院生を中心に構成する混声合唱団で、国内外の著名オーケストラと数多くの共演を果たしている。日本フィルハーモニー交響楽団との共演は、「第九」を始めとして1979年以来40年以上の歴史を持つ。

2023年には日本フィルハーモニー交響楽団「クレルヴォ交響曲」「第九」《道化師》「カルミナ・ブラーナ」、2024年には「地中海のテーマ」「第九」、2025年には「復活」、《仮面舞踏会》、《惑星》、「マイ・ウェイ・オヴ・ライフ」、「スターバト・マーテル」に出演。

合唱指導は2024年度より、志村文彦、杉野正隆、藤牧正充、浅井隆仁の各氏に加え、フレンドリー・アドバイザーとして広上淳一氏を迎えている。



### 今日のコンサートの聴きどころは？

ヨーロッパ文化史研究家小宮正安さんの面白解説をお楽しみください！

14時20分より大ホールにて♪



小宮正安 (こみや まさやす) ●ヨーロッパ文化史・ドイツ文学研究家。横浜国立大学(大学院都市イノベーション学府・都市科学部)教授。著書に『ベートーヴェン(第九)の世界』(岩波新書)、『ぼらの騎士』(音楽之友社)、『エリザベートと黄昏のハプスブルク帝国』(創元社)、『コンスタンツェ・モーツァルト(悪妻)伝説の虚実』(講談社選書メチエ)、『音楽史 影の仕掛人』『オーケストラの文明史 ヨーロッパ3000年の夢』(春秋社)、『モーツァルトを「造った」男ケッヘルと同時代のウィーン』(講談社現代新書)、『愉悦の蒐集 ヴンダーカンマーの謎』(集英社新書)など多数。NHK『ウィーンフィル・ニューイヤーコンサート』でのコメンテーターをはじめテレビやラジオへの出演や監修、『東京・春・音楽祭』でのナビゲーターなど、幅広い分野で活躍している。

## ウェーバー：歌劇《オベロン》より序曲

ドイツ・ロマン主義オペラの創始者と評される作曲家、カール・マリア・フォン・ウェーバー (1786-1826)。彼は歳を重ねるごとに、伝統的なイタリア様式のオペラを書いたモーツァルトと異なり、物語の題材をドイツの伝説や昔話に取材し、舞台は王侯貴族の宮廷ではなくドイツを象徴する森や農村を選ぶこととなった。

歌劇《オベロン》は、1826年4月12日にロンドンで自身の指揮により初演。結核を押しつけてイギリスに渡ったことが祟り、2か月後にウェーバーが亡くなったため、彼にとって最後のオペラ作品となった。台本の内容が錯綜しているためオペラ自体の上演の機会は多くないが、《魔弾の射手》同様、序曲は単独でよく演奏されている。

《オベロン》のストーリーは、ウェーバーの同時代人であったドイツの文学者クリストフ・マルティン・ヴィーラント (1733-1813) の叙事詩《オベロン》を基に、ウィリアム・シェイクスピア (1564-1616) の傑作戯曲《真夏の夜の夢》などの要素をミックスさせたもの。「男女の心変わり」について妻と口論になった妖精王のオベロンが、囚われた恋人の姫を救おうとする騎士に魔法の角笛と金杯を与え、騎士は姫の救出に成功し、最後は主要登場人物全てが和解するという内容となっている。

冒頭部分はオベロンの住まう深い森のような幻想的なホルンの独奏に始まり、徐々に妖精たちが目を覚ます中、馬に乗って愛する姫を助けに向かう騎士の姿を彷彿させる第1主題にあたる活発な部分が始まる。それに対比されるのは、クラリネットの独奏に導き出される憧れに満ちた愛を彷彿させる第2主題。この2つの主題が交互に絡み合い高め合い、最後に試練を乗り越えた主要登場人物たちが喜びに溢れた大団円へと至る。

**楽器編成** フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、ティンパニ、弦楽5部。

## ベートーヴェン：交響曲第9番《合唱》ニ短調 op.125

ドイツを代表する詩人の1人フリードリヒ・フォン・シラー (1759-1805)。彼が、「自由・平等・友愛」の理念をテーマにした詩「歓喜に寄す」を書いたのは、1785年のことだった。しかも4年後の1789年には、その理念とも通底するフランス革命が勃発し、当時20歳を目前に控えていた若き日のルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン (1770-1827) が、「歓喜に寄す」に基づいた作品を作りたい、という構想を抱く1つのきっかけともなっていく。

それから30年近い年月を経た1817年、ベートーヴェンはロンドンのフィルハーモニック協会から、新作交響曲の依頼を受け、その実現に向け構想を温め始めた。その後、中断を経ながら、1822年頃に交響曲の創作に本格的に着手。翌23年には第1楽章

から第3楽章までの主要な楽想を整え、1824年の初頭に全曲を完成させた。なお、シラーの「歓喜に寄す」を交響曲の終楽章に加えることがベートーヴェンの中で正式に固まったのは、全曲完成のほぼ半年前だった。ここに、『交響曲第9番』(通称「第九」)が誕生した。

なお「第九」は、「合唱付交響曲」という、当時としては非常に珍しい形の交響曲だった。「交響曲」は元々、器楽の「響き交わし (Sym-phonía)」という意味合いから生まれた言葉だが、この「第九」をもって交響曲は、声楽をも含んだ器楽作品としての新たな可能性を得ることとなる(ただし「合唱付き」という呼び名は、ベートーヴェン自身ではなく、後世の人々がつけたものである)。初演は今から200年前、1824年5月7日に、ベートーヴェンの指揮の下でおこなわれ、熱狂的な反応を引き起こした。

### 第1楽章：アレグロ・マ・ノン・トロppo、ウン・ポーコ・マエストーソ、ニ短調

序奏は、宇宙のビッグバンを彷彿させる、不安定であると同時に神秘的な弦楽器のトレモロから始まる。それに続き、分散和音の音型で激しく下降する第1主題、「喜びの歌」を先取りしたかのような第2主題が登場。この2つの主題が様々に切り結びながら楽章全体がソナタ形式に基づいて展開を遂げていった後、最後には英雄の死を思わせる葬送行進曲風の楽想が現れる。

### 第2楽章：モルト・ヴィヴァーチェ、ニ短調

ベートーヴェンが得意としたスケルツォ楽章(スケルツォとは「冗談」という意味)。ただしこの楽章では、時には激しく、時には不気味なティンパニの響きが、ブラックジョークのように散りばめられている。中間にトリオ部を持つ伝統的な三部形式を基本に、両端のスケルツォ主部それぞれ自体がソナタ形式(主題の呈示～展開～再現)という入れ子構造になっている凝り方も、一種の「冗談」に他ならない。

### 第3楽章：アダージョ・モルト・エ・カンタービレ、変ロ長調

2つの激しい楽章が続いた後、はじめて天国的な安息感が溢れる長大な楽章だ。しかもこの楽章でも、瞑想的な変ロ長調の第1主題と、少し動きのあるニ長調の第2主題を基にした、ソナタ形式が用いられている。楽章の最後には、天が開けたかのような輝かしいファンファーレが奏でられるものの、やがてすべては静まってゆく。

### 第4楽章：プレスト、ニ短調。

長大な序奏の部分はオーケストラのみにより、不協和音の爆発、低弦が奏でる朗唱風の重々しいメロディにより始まる。しかもこのメロディによって前の3つの楽章の主題がすべて否定された末、「喜びの歌」のメロディが姿を現す。さらに、件の朗唱風のメロディに乗せてバリトン独唱が歌い始め、これまで展開されてきた「器楽のみ」による交響曲のあり方をも否定。声楽と器楽の新たな響きが作られてゆく。死せる英雄が死後赴く楽園(エリジウム)からやってきた「歓喜」が、失われた自由や友愛をもたらすという「歓喜に寄す」のメッセージを、音楽によって昇華させた壮大なフィナーレに他ならない。

**楽器編成** 独唱ソプラノ、独唱アルト、独唱テノール、独唱バス、混声合唱(ソプラノ、アルト、テノール、バス)、ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、弦楽5部。

Ode "An die Freude" von Friedrich Schiller  
フリードリヒ・シラー 頌歌 "歓喜に寄す" より

訳: 小宮正安

O Freunde, nicht diese Töne!  
Sondern laßt uns angenehmere  
anstimmen und freudenvollere!

Freude, Schöner Götterfunken,  
Tochter aus Elysium,  
Wir betreten feuertrunken,  
Himmlische, dein Heiligtum.  
Deine Zauber binden wieder,  
Was die Mode streng getheilt;  
Alle Menschen werden Brüder,  
Wo dein sanfter Flügel weilt.

Wem der große Wurf gelungen,  
Eines Freundes Freund zu sein,  
Wer ein holdes Weib errungen,  
Mische seinen Jubel ein!  
Ja, wer auch nur eine Seele  
Sein nennt auf dem Erdenrund!  
Und wer's nie gekonnt, der stehle  
Weinend sich aus diesem Bund!

Freude trinken alle Wesen  
An den Brüsten der Natur;  
Alle Guten, alle Bösen  
Folgen ihrer Rosenspur.  
Küsse gab sie uns und Reben,  
Einen Freund, geprüft im Tod;  
Wollust ward dem Wurm gegeben,  
Und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen fliegen  
Durch des Himmels prächt'gen Plan,  
Laufet, Brüder, eure Bahn,  
Freudig wie ein Held zum siegen.

Seid umschlungen Millionen!  
Diesen Kuß der ganzen Welt!  
Brüder - überm Sternenzelt  
Muß ein lieber Vater wohnen.  
Ihr stürzt nieder, Millionen?  
Ahnest du den Schöpfer, Welt?  
Such' ihn überm Sternenzelt!  
Über Sternen muß er wohnen.

(以上、フリードリヒ・シラーの『歓喜に寄す』をベートーヴェンが自由に編纂)

おお友よ、このような音ではだめだ!  
そうではなくより心地良い音に  
さあ声を合わせようより喜びに満ちた音に!  
(以上ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン作詞)

喜びよ、神々の美しい閃光よ  
エリジウムの娘よ  
私たちは足を踏み入れる 炎に酔いしれつつ  
素晴らしいお前の聖所へと。  
お前の魔法は再び結びつける  
厳格に分断されていた世の趨勢を。  
あらゆる人々は兄弟となるがよい  
お前の柔らかな翼が憩うところで。

大きな幸いを得た者  
即ち友を友とできた者  
優しい妻を得た者は  
その喜びを共にしよう!  
そうだ、たとえたったひとつの魂であっても  
自分のものと呼べるものを世界で持つ者は!  
そしてそれができない者は、そっと立ち去るがよい  
涙しながらこの集まりの外へ!

あらゆる存在は喜びを飲む、  
自然の乳房から。  
いかなる善者も、いかなる悪漢も  
バラの道をゆく。  
喜びは私たちに接吻と葡萄酒とを与えてくれた  
そして死の試練をのりこえた友も。  
快樂などはウジ虫に与えてしまえ  
そうすればケルビムが見えてくる神の御前に。

朗らかに 創造主の恒星が飛翔するように  
天の輝かしい運行の中を  
進め、兄弟よ、君たちの行く道を  
喜びに満ちて、勝利へ向かう英雄のように。

抱かれよ数多の者たちよ!  
この接吻を全ての世界に!  
兄弟たちよ星の輝く天幕の彼方には  
慈愛に満ちた父がいるに違いない。  
ひざまずくか、数多の者たちよ?  
創造主を感じるか、世の者たちよ?  
その方を星の輝く天幕の彼方に探せ!  
星の彼方にその方はいるに違いない。



Column

歴史でひもとく! ~クラシックこぼれ話 by 小宮正安

ベートーヴェン vs. ウェーバー?  
ベートーヴェン & ウェーバー?



ベートーヴェンとウェーバーは、ともに同じ時代を生きた。ただし1770年生まれ  
のベートーヴェンが、1786年生まれ  
のウェーバーよりも16歳年上という関係だ。

そんなベートーヴェンとウェーバーとの関係だが、必ずしも良好ではなかったかのよ  
うなエピソードが散見される。曰く、ベートーヴェンの傑作の1つとして知られる『交響曲  
第7番』(通称「ベト7」)に対し、ウェーバーが、「狂気の沙汰だ」といった発言をした。  
あるいは、いわゆる「クラシック音楽」の改革を次々とおこなってゆくベートーヴェンに  
対し、やはり時代の最先端に行く音楽家であることを自認していたウェーバーが、激しい  
嫉妬を感じていた…。

だが、そんなベートーヴェンとウェーバーは1823年に面会を果たしている。折しもベ  
ートーヴェンが「第九」の最終的な完成に向けて、情熱を注いでいた頃の話。当時ベ  
ートーヴェンが住んでいた、ウィーン近郊の温泉保養地のバーデンをウェーバーが訪問した  
ことで、両者の出会いが実現した。

ちなみに当時のウェーバーは、オーストリアの都であるウィーンではなく、ドイツ東部の  
古都ドレスデンを本拠地としていた。そうした中、ウェーバーは、「音楽の都」としてつと  
に有名なウィーンに足を運び、限られた滞在時間の中で、しかもウィーンの外に位置  
するバーデンを尋ねたわけである。つまりそこには、ベートーヴェンに対するウェーバー  
の深い敬意の念を見て取れないだろうか?

ベートーヴェンの側も、そんなウェーバーを温かく迎えた。そしてドイツ語に基づいた  
オペラ、いわゆる「ドイツ・オペラ」で成功したいのであれば、様々なしがらみに囚われ  
たヨーロッパ大陸ではなく、イギリスに渡るべきだというアドヴァイスもおこなう。

そんなベートーヴェンの教唆もあったのか。やがて  
ウェーバーは病を押してイギリスへ渡り、病状が悪化  
した結果、この異国の地で息を引き取る。折しも、  
年長者だったベートーヴェンが没する1年前のこと。  
そしてこの時ウェーバーがロンドンで初演したオペラ  
こそ、ベートーヴェンの「第九」のごとく、最後はす  
べての登場人物が愛で結ばれるというストーリーの  
《オベロン》だった。

来年2026年は、そんなウェーバーの没後200年  
の年である。



1826年のロンドン公演で指揮するウェーバー。J.ハイター&C.J.ハルマンデル画、1826年

■本日の公演は終演時のカーテンコールでの写真撮影が可能です

携帯電話・スマートフォン付属のカメラで着席のまま撮影をお願いいたします。フラッシュ、動画撮影はお控えください。詳しくは会場の掲示をご覧ください。

日本フィル 横浜アンサンブル・ワンダーランド Vol.3

JPO Brass Quintet ~横浜に輝くブラスアンサンブルの夕べ~

2026年1月27日 19:00 横浜みなとみらいホール 小ホール

JPO Brass Quintet

トランペット: オッタビアーノ・クリストーフォリ、犬飼伸紀

ホルン: 信末碩才 トロンボーン: 伊藤雄太

チューバ: 柳生和夫



【第1部】ヴェルディ: 歌劇《ナブッコ》序曲 エヴァルト: 金管五重奏曲第2番 ガーシュウィン: 組曲《ポーギーとベス》

【第2部】トークイベント

チケット発売中!

【全席指定】※未就学児不可 ※会員: 日本フィル各種会員。みなとみらいホールのウェブフレンズ会員。一般 3,000円 各種会員 2,500円 U18シート 1,000円 お申込み 日本フィル・サービスセンター ☎03-5378-5911 (平日 10:00~17:00)

主催: 日本フィルハーモニー交響楽団 協力: 横浜みなとみらいホール (公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

コバケン・ワールド Vol.43-45 3公演セット券

2025年12/17 発売

Vol.43 2026年4月18日(土) Vol.44 2026年9月27日(日) Vol.45 2027年3月6日(土)

S ¥15,400 A ¥12,300 B ¥10,200 P ¥8,000 Gs (70歳以上) ¥9,800

◆定期会員券ご寄付のお願い◆

お客様のご都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

【ご寄付の方法】

ご寄付いただける会員券の公演日・座席数・座席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX、メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。

- 公演1週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。●会員券のご郵送代はお客様にてご負担いただきます様ご協力をお願いいたします。●ご寄付いただいた定期会員のお客様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送いたします。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願いいたします。

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。心より御礼申し上げます。

日本フィル・サービスセンター 〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1

TEL: 03-5378-5911 (平日10時~17時)

FAX: 03-5378-6161 (24時間)

e-mail: order-ticket@japanphil.or.jp

敬称略・五十音順

横浜定期会員の特典

横浜ベイホテル東急(横浜みなとみらいホール向かい)にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食: 下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。(4名様まで) ※除外日および対象外メニューあり

オールデイダイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に横浜定期会員券をご提示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。※指定以外の店舗、および宴会は対象外ですのでご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

(1956年6月創立)

- 創立指揮者/渡邊暁雄 ●首席指揮者/カーチュン・ウォン
●桂冠名誉指揮者/小林研一郎 ●桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
●名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン ●フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)/広上淳一
●名誉指揮者/ジェームズ・ロッドラン ●客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ

公式X (元Twitter) @Japanphil



Table with columns for various roles: ソロ・コンサートマスター, ソロ・チェロ, ソロ・トランペット, 会長, 名誉顧問, 団友, etc. Lists names of staff and members.

◎首席奏者 ☆客演首席奏者
○副首席奏者 □試用期間

(2025年12月1日現在)